

新たな仕組みについて（各論）

～「守り・育て・活かす」緑豊かな森づくりを目指す～

◆基本施策（6本の柱）

（1）森林の大切さの啓発と魅力の発信

森林の大切さや魅力を情報発信し、森林の重要性について理解を深め市民の関心を高めることを推進する。

新たな課題と社会情勢

- ① 情報発信の手段が市広報誌や市ホームページに留まっている。
- ② 市民の関心を高めるようなメニューやニーズが把握できていない。
- ③ 子どもから大人を対象にした「木育」の教育活動が注目されているが、市にはこうした取り組みへの考え方や方針などがまとめられていない。

＜木育＞

林野庁では、平成 17 年度から、国産材利用の意義を広め、国産材利用を拡大していくための国民運動として「木づかい運動」を展開している。近年では、「木づかい運動」の一環として、「木育」の取組も広がっている。木育とは、子どもから大人を対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて、木への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動である。（森林・林業白書 平成 26 年度から一部抜粋）

課題に対する考え方

- ① 幅広い情報ツールを利用したインパクトのある情報発信が望まれる。
- ② 市民のニーズを常に把握する仕組みづくりと市民が関心を寄せるような普及啓発事業の推進が求められる。
- ③ 「木育」を取り入れた事業の推進が求められる。

対策事例

- ・ SNS(注)やメーリングリスト等の情報網を利用した情報発信 注) ソーシャルネットワーキングサービス
- ・ イベントや森づくり講座など機会あるたびにアンケート実施
- ・ 長浜市木づかい運動として、親子木育コンクールや木製品の加工教室の開催
- ・ 市内の工務店等による木工教室の開催
- ・ 子育て世代への意識づけを行うために、生誕した子供たちの記念植樹制度の創設
(記念樹として家庭へ苗木配布：各個人森林植林もしくは市有地の提供)

参考 滋賀県森林審議会答申より抜粋

県産材を使った公共建築物や木造住宅および木製品利用により、様々な世代を対象に、ウッドスタートから段階的に『木育』を推進することで、木材の特性やその利用の促進の意義について県民の理解の醸成を効果的に図り、滋賀の風土にあった「びわ湖材」の積極的な利用について、普及・啓発する

各委員の事前意見

- ① 全体にどれぐらいの経費が掛かっているのか
- ② 魅力の発信においても全年齢層でなくターゲットを絞りこむ必要があるのでは
- ③ 啓発などの目標設定は

審議会での意見

(2) 市民が参画する森林づくり

森林づくり団体、市民団体、森林所有者、企業などが主体的に里山の保全活動を実践することを推進する。

新たな課題

- ① 森林活動団体間の交流が少ない。
- ② 団体及び行政がそれぞれ果たす役割と責任の認識が曖昧で相互の分担・役割体制が整っていない。
- ③ 企業に対して行政からの周知、啓発、情報提供が少ない。

課題に対する考え方

- ① 行政には、団体活動を市民にわかりやすく伝えるとともに、活動に対する支援制度の周知、啓発が求められる。
- ② 長浜市森づくりクラブが団体間の情報交換を行う中心的な役割を担う必要がある。
- ③ 企業に対する定期的な情報発信の強化と参画しやすいイメージ戦略が求められる。

対策事例

- ・ 森林活動団体のフィールド自慢のシリーズ化（広報、HP等）
- ・ 団体間の連絡体制の充実（SNSやメールリングリスト等の活用）
- ・ 各団体への活動支援（森林多面的機能発揮対策交付金や民間支援制度の活用）
- ・ スタンプラリー制度の導入（優秀者への市産材製品の無償提供）
- ・ 企業の森づくり参加活動に対して森林利用施設、市有林等の活動フィールドの提供
- ・ 市産材を活用した企業PR品の提供（木の薫る入浴品、調理道具等）

参考 滋賀県森林審議会答申より抜粋

森林所有者自らが手入れできない森林については、地域の状況に応じて、森林組合による管理やコモンズなど地域による管理、企業やNPOの参画など多様な主体による管理や公的管理などそれぞれの特性を活かして管理できるよう支援することが求められる。

各委員の事前意見

- ① 活動団体のリストアップ（活動内容等把握出来る範囲で）
- ② 団体の活動事例 PR の場づくり。年 1 回の報告会等開催を
- ③ 市民参画の取組み事例（豊田市（森の健康診断）や福井県の事例等あり）を参考に
してみてもどうか
- ④ 企業に対しては啓発のルート、仕組みづくりを記載すべき
- ⑤ 企業は商工会議所などに参画、情報発信が良いのでは

審議会での意見

(3) 次代の森林を支える人づくり

さまざまな世代で森林環境学習が進められ、森林づくりを支える人材の確保・育成を推進する。

<市民への森林環境学習>

新たな課題

- ① 幅広い年齢層での森林環境学習の機会が少ない。
- ② 教育現場における森林環境学習の負担が大きい。

課題に対する考え方

- ① さまざまな世代に森林環境学習の取り組みを地域の実態に応じて推進できる工夫が求められる。
- ② 教育現場における支援や地域活動団体への支援が求められる。

対策事例

- ・ やまのこ事業の対象拡大（中学生を対象にした職業体験など）
- ・ 各団体への活動支援（森林多面的機能発揮対策交付金や民間支援制度の活用）
- ・ 地域やボランティア組織による指導者登録制度の創設

<意欲ある森林所有者・グループの育成>

新たな課題

- ① 幅広い世代や女性の森林整備参画が少ない。
- ② 森林所有者に目を向けてもらう対策が少ない。
- ③ 林業（山村地域）の魅力が乏しい
- ④ リーダー不足、参画者の広がりが少ない。

<森林作業員の育成>

新たな課題

- ① 森林従事者の減少（森林組合等の作業員減少）
- ② 集約化施業以外の小規模森林の整備が遅れている

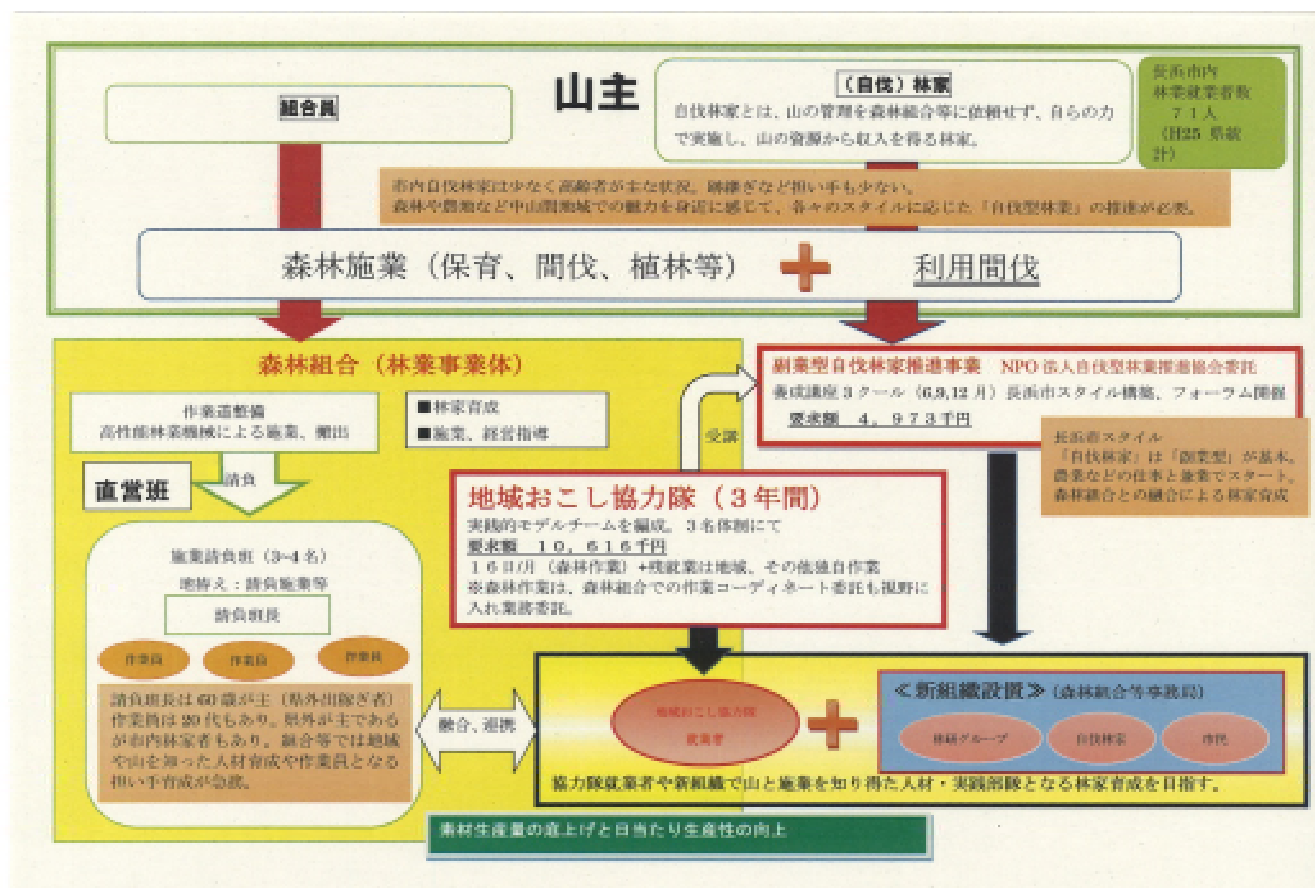
課題に対する考え方

- ① 将来を担う森林所有者を呼び込む起爆剤として人材を求める施策が必要
- ② 林家育成は、林業事業体である森林組合と連携し、施業の効率化と窓口の統一を図る必要がある。
- ③ 経済的なメリットやインセンティブが無ければ従事者は見込めないため、収益をもたらす仕組みづくりが求められる。

対策事例

- ・ 「地域おこし協力隊」（定住型の自伐林家育成 ※平成 27 年度事業検討）
- ・ 自伐林家育成講座の実施（平成 26 年度事業実施中 ※平成 27 年度に事業拡充予定）
- ・ 統一した森林整備啓発チラシの作成、配布、窓口の明確化

【自伐林家養成事業フロー】



参考 滋賀県森林審議会答申より抜粋

地域全体の森林への関心を高め、地域やNPO団体等、多様な主体の間伐への参画を促進し、特に意欲のある森林所有者やいわゆる自伐型林業を支援するため、林内に放置されている間伐の未利用材等を活用する地域の取組みを推進することが求められる。

森林所有者は森林を管理する責任があることを十分に認識するとともに、木材供給者としての自覚を持ち、森林管理や木材生産に対する意識を高める必要がある。また、間伐等森林整備の重要性について、県民等の理解を深め、更なる間伐促進、間伐材利用につなげるため、間伐事業に係わる者は間伐の実施状況や間伐材の利用等の状況について、積極的に情報発信する必要がある。

各委員の事前意見

- ① 地域の受入と連携が重要（見守り隊等の活動団体）
- ② 何をするのか？カリキュラム（ただの作業になってはダメ）、教材を示す必要がある。
- ③ 自伐林家について島根県の事例あり
- ④ 人づくりは重要。建築現場の技術人材不足もクローズアップされている。

審議会での意見

(4) 森林資源の利用拡大

長浜市産木材を公共施設、住宅または木質バイオマスエネルギー等への活用を進めるとともに適正な流通の確保を推進する。

<木造住宅の建築>

新たな課題

- ① 国産材のコストが高いというイメージが先行している。
- ② 市産材を利用した木造住宅のメリット（森林整備の推進、地産地消、リラックス、予防医療）が十分周知されていない。

課題に対する考え方

- ① 市産材の安定した供給体制の構築が求められる。
- ② 個人住宅向けの利用促進施策の創設が求められる。
- ③ 効果的な周知啓発が求められる。

対策事例

- ・ 長浜市産材の供給体制の組織化（市と市産材共同企業体と製材加工事業所との連携）
- ・ 個人住宅向けの市産材活用補助金の創設（平成 26 年度から事業創設）
- ・ 市民に身近な場所（コンビニエンスストア等のサービス店）での市産材活用
- ・ 木製家具などへの市産材利用の啓発強化

<公共施設での木材利用>

新たな課題

- ① 公共建築物長浜市産材利用促進基本方針、公共建築物長浜市産材調達基金などが周知されていない。
- ② 市民に身近な場所での活用が進んでいない。

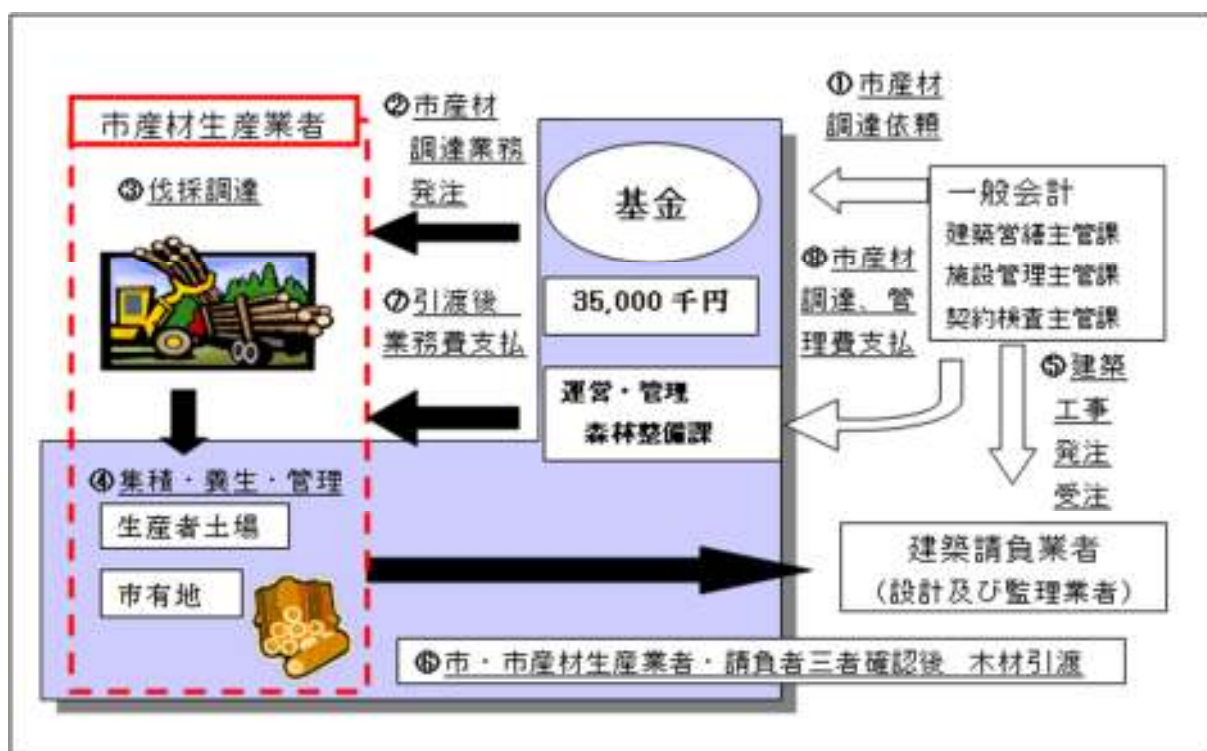
課題に対する考え方

- ① 公共建築物関係組織の密接な連携を図る必要がある。
- ② 発注段階での市産材調達ではタイミング的に遅く、設計段階での関係機関の連携を図る必要がある。
- ③ 公共施設における効果的な周知啓発を図る必要がある。

対策事例

- ・ 設計段階からの木材調達の調整
- ・ 市産材提供製品の規格化（フローリング、柱材、内装材）
- ・ 公園施設や庁舎の備品などに積極的な市産材利用

【公共建築物長浜市産材調達管理基金フロー】



【長浜市産材利用促進事業フロー】

平成29年度

長浜市産材での家づくり

長浜市産材利用促進事業補助金

最大 30 万円助成！

補助内容

- ・住宅専任型団地型入居者以上の事業等に建設費が交付されます。

補助要件

- ・長浜市産材利用が10%以上使用（1㎡あたり100kg以上）が要するもの。

補助金額

- ・最大助成額100万円（上限30万円）

申請期間

- ・平成29年度7月1日～平成30年3月31日まで

申請方法

- ・ホームページ裏面までご覧ください。









長浜市産事業経済部森林整備課
 TEL: 0749-44-6541・FAX: 0749-44-1802
 E-MAIL: shinryoku@city.nagahama.lg.jp



＜木質バイオマスエネルギー利用＞

新たな課題

- ① エネルギー資源の供給体制が整っていない。
- ② 市公共施設への機器の導入事例がない。
- ③ 木質バイオマスエネルギーの良さを体験あるいは体感できる機会が乏しい。

課題に対する考え方

- ① 資源供給の体制整備を図る必要がある。
- ② 公共建築物での積極的な導入が求められる。
- ③ 体験的周知啓発を図る必要がある。

対策事例

- ・ 木質バイオマスの収集と供給対策事業（平成 26 年度「薪市場」※固定買取制度）
- ・ 森林からの搬出を促すための機器整備並びに技術講習の充実
（平成 25 年度 搬出機器（ロープウィンチ、林内作業車等）機器購入）
（平成 24 年度 森づくり講座の開催）
- ・ 各団体への活動支援（森林多面的機能発揮対策交付金や民間支援制度の活用）
- ・ 公共施設への機器の導入促進
- ・ 木質バイオマスボイラー等の設置奨励制度の創設（ストーブ以外）
- ・ 木質バイオマスエネルギーの良さを伝える普及啓発
（平成 24 年度 森づくりふれあいフェスタでの薪づくり、バイオマス機器啓発）

参考 滋賀県森林審議会答申より抜粋

県産材を安定的に流通させていくためには、需要と供給のミスマッチの解消が課題であることから、木材流通センターが、販路拡大など安定した供給先の確保や需要やニーズに即した原木供給、一時ストックや運送手配など市況に対して弾力的かつ効率的な集配を行うなど需要情報の発信機能や出荷量の調整機能を発揮し、素材生産事業者の調整窓口として一層活用されることが求められる。

また、公共施設の木造化・木質化への取組を全県に広げ、県自らが県産材に関する情報を提供するなど、庁内の連携体制を密にすることで、公共建築物等の木造化、木質化に努めることが必要である。併せて、市町等に対し木材調達および技術面の助言を積極的に行うことで、公共建築物の木造化、木質化を普及することが重要である。

各委員の事前意見

- ① ベースの需用があるのか？市産材というより県産材等広域取組はどうか？長浜市がどこまでのこだわりか
- ② 現在の市産材フローに数値等入れて欲しい。
- ③ 「ウッドファースト」という考え方もある
- ④ 介護施設等【バリアフリー】への木材利用の検討など
- ⑤ 木造住宅ユーザーの住み心地のアンケートでニーズを把握
- ⑥ 市産材が並んだ貯木場、ストックヤードの整備。
- ⑦ 市内工務店との連携
- ⑧ 木質エネルギー導入に向けペレット製造の調査（コスト、設備内容等）
- ⑨ 小型発電施設の検討。ペレット製造の検討

審議会での意見

(5) 効率的な木材生産

森林境界の明確化を進め、施業の集約化や高性能林業機械により効率的な木材生産を推進する。

＜零細な所有規模＞

新たな課題

- ① 共有名義地など複雑で多様な所有形態が存在する。
- ② 分散型の所有形態であるため合意までの手続きに時間と労力がかかる

＜森林境界の不明な森林増加＞

新たな課題

- ① 不在村化が進んでおり所有者の不明地が多い。
- ② 現地の状況変化も含め境界が不明なところが多い。

課題に対する考え方

- ① 自治会単位でとりまとめて進める対策が有効であり、自治会への支援対策の充実が必要
- ② 複数年に至る場合も想定され、地域に森林整備の推進員設置が求められる。
- ③ 境界明確化事業には関係者間の連携強化と行政側の支援措置の充実を図る必要がある、

対策事例

- ・ 境界明確化に取り組む自治会への補助支援創設
(平成 24 年度 1 団地あたり 50,000 円の定額補助制度の創設)
- ・ 自治会への所有者情報の提供
(平成 24 年度 自治会長への登記情報の提供)
- ・ 計画的な境界明確化推進事業の推進
(平成 23 年度 滋賀県において 3 ヶ年計画での補助支援制度の創設)
- ・ 県、市、森林組合 3 者による地元説明会の開催 (平成 25 年度 地元説明実施)

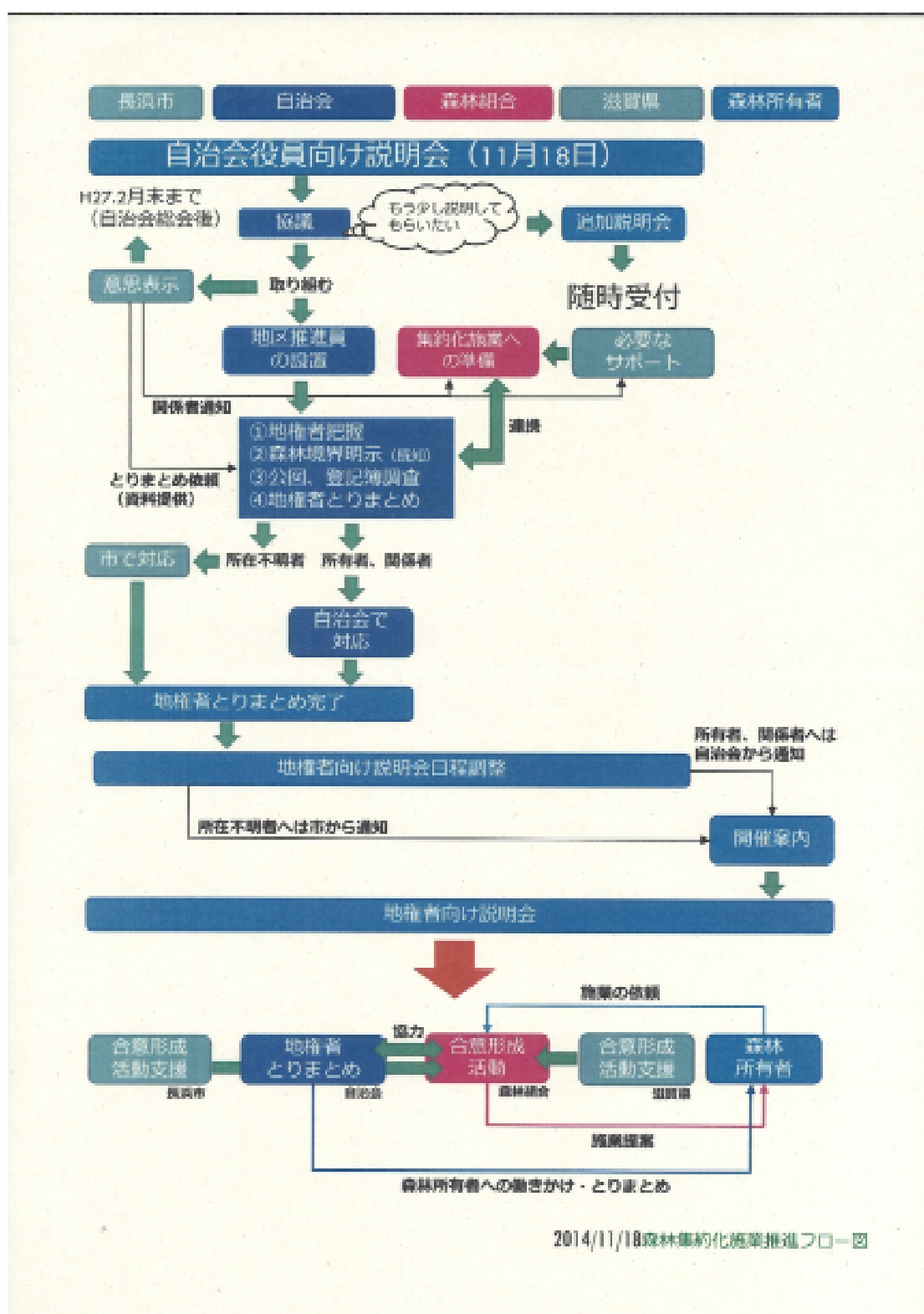
参考 滋賀県森林審議会答申より抜粋

境界明確化は、関係地権者が立ち会い、地域が一体となって実施する必要があることから、集落会議等を通じて関係地権者の参画を促し、取りまとめて合意形成できるよう地域の体制を強化する仕組みが必要である。

また、このような地域による境界明確化の活動に対して、行政、森林組合などが連携しバックアップする取組みが必要である。

なお、境界が確定できない場合であっても、地域の森林として一体的に自治会等で管理することとして、森林整備に着手している事例も県下にはあることから、こういった手法も紹介していく必要がある。

【森林集約化施業推進フロー】



<森林作業道の開設>

新たな課題

- ① 作業道整備のオペレーター育成【担い手】が十分ではない。

<作業の効率性>

新たな課題

- ① 高性能林業機械の導入台数が必ずしも十分ではない。
- ② 積雪に配慮した施業サイクルが確立されていない。
- ③ 作業効率の実績が上がっていない。

課題に対する考え方

- ① 作業道整備に向けて多様な研修制度の充実により作業効率の向上を目指す必要がある。
- ② 高性能林業機械の計画的な配置と連動リース制度の活用
- ③ 行政、林業事業体の連携強化を図る必要がある。

対策事例

- ・オペレーター等の人材育成（県研修会開催）
- ・作業道の先進事例指導（県現地指導研修：随時、ドイツアウグスブルグ市フォレスター招聘事業 平成 25 年度 先進研修 ※平成 27 年度フォレスター招聘現地指導予定）
- ・自伐林家育成講座の実施（平成 26 年度事業実施中 ※平成 27 年度 事業拡充予定）
- ・高性能林業機械の継続支援（平成 24 年度 市での機械購入支援制度の創設）
- ・高性能林業機械のリース制度活用（県リース制度：随時）
- ・県、市、森林組合による集約定例会議の実施（26 年度から実施中）

各委員の事前意見

- ① 個人からコミュニティ林業への転換を視野に 東近江市の事例参照
- ② 集落の中でもグループ単位で進められる境界明確化の推進
- ③ GPS を活用した森林所有データの県、市、林業事業体のデータベース化の検討
- ④ 共有名義対策の法制化（地域の合意が得られた場合には森林整備が可能・・・）
- ⑤ 林業推進員は重要。旧町単位であった林業実行組合長制度のような
- ⑥ フォレスター人材養成（日本での認証、役職化を目指す）

審議会での意見

(6) 多様な森林づくり

森林の公益的機能、病虫獣害対策または文化財等に調和した森林等、さまざまな森林づくりを推進する。

＜天然林の保全と活用＞（巨樹・巨木林の保全事業、里山林一括項目として）

新たな課題

- ① 天然林については、活用と保全の両面を持ち合わせており、その対策を導き出すには、森林の現状や地域の実情をつぶさに把握する必要がある。
- ② 貴重な生態系の保全については、地域の合意形成が必要（竹生島のタブノキ再生、山門水源の森）
- ③ 巨樹・巨木林については、樹木単位の保全には限界がある。
- ④ 里山の維持管理は、人手不足などにより不十分な事例がある。

課題に対する考え方

- ① 多様な森林づくりに向けて、地域の状況を把握できる人材の設置が求められる。
- ② 天然林の活用策を見出す必要がある。
- ③ 保全林をはじめ里山の管理については、地域との連携体制が不可欠であり、支援対策の充実が求められる。

対策事例

- ・ 資源調査や地域の実態を把握するための自治会での地区推進員の設置
- ・ 工芸品や家具類など天然林を活用した製材品の試作品制作。
- ・ 森林保全活動員の設置及び保全活動調査事業の創設（県において検討中）
- ・ 保全対策について地元と関係機関との連携強化
- ・ 各団体への活動支援（森林多面的機能発揮対策交付金や民間支援制度の活用）
- ・ 木質バイオマスの収集と供給対策事業（平成 26 年度「薪市場」※固定買取制度）
- ・ 森林からの搬出を促すための機器整備並びに技術講習の充実
（平成 25 年度 搬出機器（ロープウィンチ、林内作業車等）機器購入）
（平成 24 年度 森づくり講座の開催）

参考 滋賀県森林審議会答申より抜粋

水源林を永続的に保全していくためには、的確に現状を把握し、状況に応じた対策を講じていく必要があることから、地域の森林の事情に精通しており、防災や獣害をはじめとする様々な森林保全上の問題を一元的に把握して、対応することを目的とした「(仮称) 水源林保全巡視員」を配置することにより巡視の強化を検討するべきである。

また、森林の状態に応じたさまざまな対策を講じるためには、崩壊地や危険地の地形や植生被害の状況等を的確に把握できるデータの収集に努める必要がある。

水源の森に残された貴重な巨樹・巨木の森をはじめとする多様な森林生態系の恒久的な保全が重要であることから、県民に親しんでいただくことによって、地域の人々の文化や暮らしとともに持続的に保全される仕組みが必要である。

生物多様性に富んだ森林は、自然的価値や文化的価値の高い地域資源であり、環境学習やエコツーリズム等への活用を通じて、地域集落の活力を取り戻す取組が重要である。このような取組により、その価値を広く発信して、県民に保全の必要性について理解を深めてもらい、永続的に継承しようとする意識の醸成を図ることが求められる。

＜獣害対策＞

新たな課題と社会情勢

- ① 捕獲数は伸びているが、獣の増加が著しい。
- ② 手入れ不足の森林区域が獣の温床となっている。
- ③ 獣を捕獲する人材の確保

＜獣害＞

近年増加傾向の中で被害が深刻化している獣害について、特にニホンジカの森林植生への食害が、森林の持つ多面的機能の機能低下に大きな影響を与えている。

野生鳥獣と共生しながら、関係者が連携し、効率的な捕獲手法の確立による積極的な個体数調整、被害の防除、育成、生息環境の管理、被害箇所の回復等に取り組む必要がある。（森林・林業白書 平成 26 年度から一部抜粋）

課題に対する考え方

- ① 捕獲数向上を目指すためには新しい狩猟者への支援制度が求められる。
- ② 捕獲、防除、生息地管理の一体的な対策が求められる。

対策事例

- ・ 狩猟免許取得者への行政支援の充実（長浜市では取得者への支援制度あり）
- ・ 獣害の誘導柵策設置と緩衝帯整備と連動した対策の実施（現行実施中）
- ・ 地域と連携強化（出前講座など地域に出向いての座談会、現地講習会実施）

参考 滋賀県森林審議会答申より抜粋

ニホンジカの生息密度を低減するためには、地域の実情に応じて、多様な主体による捕獲を推進するなど既存の手法にとらわれない施策により捕獲数の拡大を図るとともに、効率的な捕獲を目指す仕組みが必要である。

さらに、関西広域連合など広域的な連携により鳥獣の捕獲等に専門性を有する担い手を育成する取組みや先進的な捕獲手法について研究を進め、活用することを検討していく必要がある。

また、生息密度の低減による森林植生の回復などの効果が現れるまでに時間を要するため、捕獲の推進と併せて森林土壌の被害の緊急度に応じた対策工法を体系化して整理することや、専門家からの意見を聞きながら森林の状況に応じた希少種の保護等の森林保全対策を実施することが必要

＜自然災害等＞

新たな課題と社会情勢

- ① 境界が不明なケースでは災害復旧が迅速かつ円滑に進められない。
- ② 迅速に災害状況を把握する体制ができていない。
- ③ 林道など日頃の維持管理が不十分であり、通行できない箇所がある。
- ④ 倒木など民家に被害を及ぼす個所があり、危険である。

＜自然災害＞

我が国の国土は、地形が急峻かつ地質がぜい弱であることに加え、梅雨前線や台風に伴う豪雨等が頻発することから毎年多くの地域で山地災害が発生している。近年では特に短時間強雨の発生頻度は増加傾向にあり、平成 25 年 9 月の「台風 18 号」では、滋賀県、京都府など近畿地方を中心に暴風雨となり、山腹崩壊等の甚大な被害をもたらした。

(森林・林業白書 平成 26 年度から一部抜粋)

課題に対する考え方

- ① 地域の状況を把握できる人材や境界明確化を推進することが求められる。
- ② 路網は森林整備の生命線であり、林道など日常の維持管理の充実が必要である。
- ③ 人家と山が接近している危険地域の森林整備を推進する対策が求められる。

対策事例

- ・地籍調査（境界明確化）の推進
- ・森林保全活動員の設置及び保全活動調査事業の創設（県においても検討中）
- ・管理に必要な林道、作業道については、通行可能な状況での維持管理対策の充実
- ・里山と人家が近接している地域の森林整備の推進（平成 25 年度 滋賀県において里山防災整備事業の創設）

参考 滋賀県森林審議会答申より抜粋

水源林を永続的に保全していくためには、的確に現状を把握し、状況に応じた対策を講じていく必要があることから、地域の森林の事情に精通しており、防災や獣害をはじめとする様々な森林保全上の問題を一元的に把握して、対応することを目的とした「(仮称)水源林保全巡視員」を配置することにより巡視の強化を検討するべきである。

また、森林の状態に応じたさまざまな対策を講じるためには、崩壊地や危険地の地形や植生被害の状況等を的確に把握できるデータの収集に努める必要がある。

各委員の事前意見

- ① 基本は雑木の活用、利用促進を念頭においた施策が求められる。
- ② 食肉加工業者との連携
- ③ 鹿、イノシシなど捕獲から利用へ食料活用

審議会での意見